

石卷港復旧・復興方針
～ 参考資料 ～

1. 被災・利用状況写真
2. 復旧工程計画表
3. 復旧方針参考図



石巻港 災害復旧対象施設位置図(国施工分)

○雲雀野地区係留施設(雲雀野中央ふ頭1号、2号) 被災および利用状況



エプロン背後沈下状況
雲雀野中央ふ頭2号(-13m)



防舷材水没状況4.1 15:00 (14:36 満潮)
雲雀野中央ふ頭2号(-13m)



応急復旧状況
雲雀野中央ふ頭2号(-13m)

○外郭施設の被災状況

南防波堤

- ・既設延長1,820mの堤体が平均1.7m程度全体的に沈下し、消波ブロックも全域に渡り沈下。

被災前



被災後



石巻港 被災後(埋没) ～ 航路・泊地(-13m) ～



○釜地区(中島ふ頭、大手ふ頭、日和ふ頭、南浜ふ頭、潮見ふ頭) 被災および利用状況



石巻港 災害復旧対象施設位置図(県施工分)



日和6号埠頭の被災状況

H23.3.14撮影

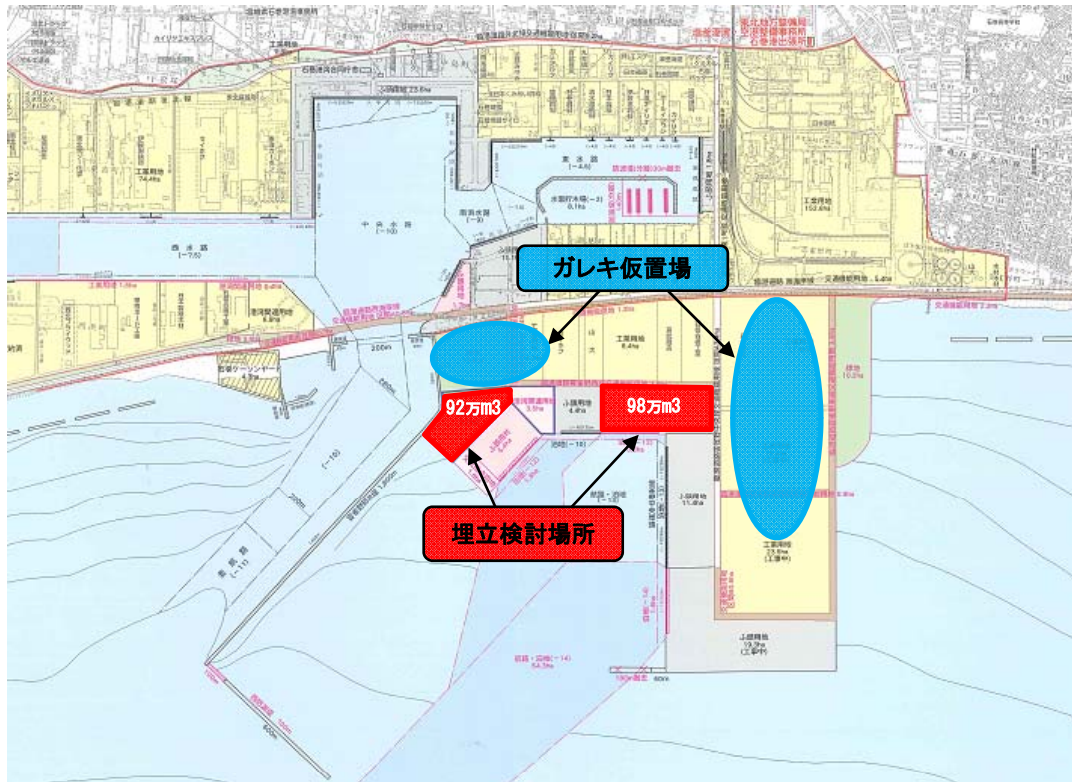


日和6号埠頭の応急復旧工事の様子

H23.5.27撮影

津波により発生したガレキ処理への貢献

○津波等により発生するガレキは宮城県内で15,824千トﾝ（H23.7.29環境省）と推計されており、中でも石巻市は6,163千トﾝ（約39%）と被災地の中で群を抜いて多く、石巻港雲雀野地区、大曲地区が二次仮置場となっている。
 コンクリート殻等の安定したガレキについて、石巻港での埋立処分を検討する。（受入容量：約190万m³）



1. ガレキ発生量
 - ・宮城県内：15,824千トﾝ（H23.7.29環境省）
 - ・石巻市：6,163千トﾝ（約39%）
2. 仮置場への搬入済量
 - ・宮城県内：6,237千トﾝ（H23.7.29環境省）
 - ・石巻市：1,244千トﾝ（H23.7.29環境省）
3. 撤去率（解体を除く撤去割合）：83%
4. 仮置場への搬入済率（ガレキ推計量に対する割合）：20%

【課題】

- 現在の仮置場面積（石巻市83.6ha）では不足のため逼迫状態。
- 県は石巻港雲雀野地区に二次仮置場として約68haを確保しているが、大量の災害廃棄物撤去及び最終処分が課題となっている。